

## 1. 大学・学部の理念・目的及び学科・研究科の使命・目的・教育目標

### (1) 大学・学部の理念・目的

#### 「現状及び点検・評価」

- ① 本学は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、医療分野において特色ある教育研究を実践することで時代の求める高い専門性及び豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材の育成を目的として、平成17年4月1日に開学した。
- ② この建学精神・教育理念に基づき医療保健学部に看護学科（入学定員100人）、医療栄養学科（入学定員100人）、医療情報学科（入学定員80人）を設置したが、3学科共通の教育理念として、「ますます高度化する医療保健活動に対応し、グローバルな視点で活動できる高度な知識・技術を持った専門職の育成」、「医療保健活動のチーム化を踏まえ、他の専門職と協調して医療保健活動を遂行できる人材の育成」、「医療保健活動の原点とも言うべき「現場」に根付き、「現場」に興味を持ち、「現場」を愛する専門職の育成」の3項目を掲げている。
- ③ これらの教育理念の実現においては、優れた実習教育病院を持つことが重要であるが、主に五反田キャンパスに隣接するNTT東日本関東病院の全面的協力に基づいて教育を実施していることは高く評価できる。  
同病院は診療システムの全面的電子化を我が国で初めて行い、画像の電子化によるフィルムレスシステム、早期より導入したクリティカルパスをも含む患者様中心のサービスと動線、アメニティーを考慮し、かつ感染制御を十分に配慮した建築設備を有するとともに、質の高い倫理面を重視した我が国有数の高度医療を行っていることから、教育実習施設として最良の病院であり、今後も同病院との連携協力のもと円滑な実習教育を行うことが望まれる。
- ④ また、大学の建学精神及び教育目標の周知を図ることが重要であることから、高等学校教員説明会、高校訪問、オープンキャンパス等において、大学側の教員や担当者が説明を行うとともに、五反田及び世田谷キャンパス玄関に建学精神及び教育目標を明記掲示し、大学案内、ウェブサイト、学報「こころ」に掲載するなど教職員、学生、社会一般への周知を図っていることは評価できる。今後、公開講座実施時に配布する資料にも建学精神及び教育目標を掲載するなど広報媒体を通して広く周知を図ることが求められる。

## (2) 看護学科の使命・目的・教育目標

### 「現状及び点検・評価」

- ① 看護学科は「生命への畏敬、思いやり、人の絆、愛を持った医療人の育成」という大学の基本理念のもと、教育課程の特色を豊かな人間性として「生命」を大切に感じられる感性を育てつつ専門性を高めることを目的とし、「いのち・人間の教育」、「医療のコラボレーション教育」、「専門職の教育」の3分野により教育を行っている。
- ② 具体的な教育目標としては、「看護の専門職者である前に1人の人間として豊かな人間性を身につけ、人間理解・生命の畏敬・生涯学習を継続し社会の変化に対応できる専門職者としての自立を促す」、「社会の期待に応えるために必要な知識・技術の修得や国内外の情報への対応ができ、専門職者として高い実践能力を身につけ現場に強い看護師の育成」及び「医療関連機関・地域社会・企業機関・学校等で連携し、共同活動による健康づくりを提案・実践できる専門職業人として社会貢献ができる教育」を目指している。
- ③ このような教育方針のもと、現在の多様化、複雑化した医療現場に対応するため、本学科では実践的なトレーニングによる「チーム医療」をコンセプトとして「現場を大事にする看護師」の育成を行っているところであり、平成21年3月には初の卒業生を社会に送り出したが、その活躍が期待される場所である。

### 「今後の改善・改革に向けた方策」

臨床現場に強い看護師の育成を図るため、今後とも教育内容・方法の質の向上を図っていくこととする。

## (3) 医療栄養学科の使命・目的・教育目標

### 「現状及び点検・評価」

- ① 本学は、医療の分野において、時代の求める豊かな人間性と教養を備え、これからの社会が抱える様々な課題に対して新しい視点から総合的に探求し解決することのできる人材の育成を目指すことを、建学の精神としているが、生活習慣病の急増を背景とした健康増進法の制定や「健康日本21」に基づく食生活の見直しなどに表われているように、国民の健康維持・増進の観点から健康と食生活の関係を深く探求するとともに、食の安全性についても研究を進めることが益々重要となっている。
- ② こうした状況を背景に、広く食生活全般にかかわる栄養指導の人材、特に高い専門知識と技能を有するスペシャリストの育成は極めて重要であり、今日、医療現場におけるチーム医療において他の関連専門職とともに的確に責務を果たせる知識、技能、経験を備えた人材の育成は急務である。

- ③ このため、本学科の学生には常に人間とは何か、いのちとは何かということを問いかけ、医療現場における食事の実態を見学し、他の専門職とのコミュニケーションを図り体験するなどのカリキュラムを編成している。なお、医療栄養学科の卒業生には、管理栄養士国家試験の受験資格が与えられるので、受験者の全員が合格できるように、きめ細かい指導を行っている。

#### 「今後の改善・改革に向けた方策」

本学は平成 20 年度に完成年度を迎え、平成 21 年 3 月には初の卒業生が管理栄養士国家試験に挑戦した。この結果等を踏まえて、今後も「臨床に強い管理栄養士の育成実現」に向けて、教育職員の構成及びカリキュラム構成等について検討を行い、必要な改善・改革を進めることとする。

#### (4) 医療情報学科の使命・目的・教育目標

##### 「現状及び点検・評価」

- ① 医療情報学科は、本学の理念である「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を基に、高度化する医療保健の現場に対応し、グローバルな視点で活動できる情報技術の専門家を育成することを使命としている。実践に必要な基礎的情報技術の修得と、実習、インターンシップを重視した実践的教育を目的とする。また、激しく変化する社会のニーズに対処できる情報技術の能力と意欲を持った人材の育成を目指している。
- ② 多くの学生が意欲的に授業に取り組む中、大学の専門教育に不可欠な数学（コンピュータサイエンスとしての情報を理解するために必須な数学）の科目が高校で未履修の学生がいる。また履修した学生の中でも、習熟度に相当の差異があるという 2 点の改善すべき現状がある。
- ③ 1 点目については、基礎数学の補講の実施、2 点目については、各専門科目の教員が授業内容を必要に応じて、より初歩、基礎から行うことによって対応しているが、補講は学力向上の成果はあるものの履修者自体が少ないという問題がある。専門科目をより初歩から行うことは、落ちこぼれ防止には役立つ。しかし、学力のある学生の勉強意欲を損なう危険がある。高校までの学力を問わない 1、2 年次の医療関連科目は、3、4 年次の専門科目の学力向上、診療情報管理士の資格試験受験に結びつかず、学生の興味と基礎学力の向上をいかに結びつけるかは、引き続き課題である。

##### 「今後の改善・改革に向けた方策」

高校までの学力を問わない実験科目が好評である点を踏まえて、医療情報が扱う分野の広さを体感し、専門科目に興味を持って取り組めるようにするため、データベース演習、システム実験、ネットワーク実験等の専門科目の基礎・入門的な部分を入学後の早い時期に医療情報総合演習として科目を配置することにした。この取り組みにより、学生の

興味を引き出し、自発的取り組みを促す。また講義の中で、適宜、関連する資格試験の問題を紹介することで、意欲のある学生がより高度な内容を学べるようにする。

#### (5) 大学院医療保健学研究科の使命・目的・教育目標

##### 「現状及び点検・評価」

- ① 本大学院は、「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動」、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を建学の精神及び教育理念とし、全人格的理解を基盤として、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し、臨床現場における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するとともに、教育・研究を通して医療保健学の発展に寄与することを目的とし、平成 19 年 4 月 1 日に大学院医療保健学研究科（修士課程）を設置した。更に、平成 21 年 4 月 1 日に感染制御学を専門領域とする博士課程を開設した。
- ② この教育理念に基づき、医療保健学研究科修士課程に看護マネジメント学、感染制御学、医療栄養学及び医療保健情報学の 4 領域（入学定員 20 名）を設置し、4 領域の教育目標を次のとおり定めている。
  - 高度な知識・技術と卓越した実践能力を持つ高度専門職業人の育成。
  - 現場の質向上に寄与する研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人の育成。
  - 国際的視野を持って、臨床現場における医療保健学を探究しつづける人材の育成。
  - 医療保健学の学問的発展に貢献できる研究者・教育者の育成。
- ③ また、博士課程（感染制御学・入学定員 4 名）の教育目標を次のとおり定めている。
  - 医療関連専門職を対象とした感染制御学の指導者を育成。
    - ・感染制御学は比較的新しい分野（1994 年に東京大学で初めて講座を開設）だが、その必要性は極めて高く、この 10 年間で全国の医療機関における感染制御体制の整備が進み、日本は、世界のトップ水準に到達していると言われている。
    - ・このような現状を踏まえ、本学の博士課程の開設は、日本の医療現場において医師以外の医療関連専門職の感染制御学の指導者の育成を図る。
- ④ これらの教育理念及び教育目標の実現のため、大学院生は、現場経験を持った社会人に限定し、連休・夏季休暇などにおける集中講義を必修科目にあて、更に夜間及び土曜日に開講することにより、社会人が働きながら学修できるように配慮している。
- ⑤ 大学院生は個人データの保護等の見地から個人所有のノート型パソコンを使用している。また社会人が働きながら学習できる環境を整えるため、院生個人所有のノート型パソコンを学内情報システムと繋ぎ、学内情報システムには勤務地、自宅を含めてどこでもアクセス可能としたこと、CINAHL on Ovid 及び MEDLINE のデータベースを導入し外国文献の検索を可能にしたことは高く評価できる。

- ⑥ なお、建学の精神及び教育目標の周知を図るため、個別相談会、オープンキャンパス等において、大学院専任教員等が説明を行うとともに、大学院案内、ホームページ及び公開講座実施時の配布資料に大学院の概要を掲載するなど教職員、院生及び社会一般への周知を図っていることは評価できる。今後、本大学院の4領域（看護マネジメント学、感染制御学、医療栄養学及び医療保健情報学）を医療・保健施設、教育研究機関及び企業等に対して広報媒体を通して広く周知を図ることが求められる。

「今後の改善・改革に向けた方策」

本学大学院の人材養成に対する喫緊の課題として、水準の高い創造的問題解決能力を有する高度専門職業人でありかつ感染対策チームの中心となる人材及び医療の現場において高度専門職として医療の要となる人材の育成が強く求められている。

このため、平成21年4月1日から新たに博士課程（感染制御学）を設置したことにより、日本の医療現場における医師以外の医療関連専門職を対象とした感染制御学分野での専門的知識を持った指導者の育成に寄与することができるものと期待される。